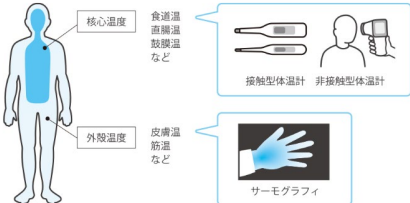
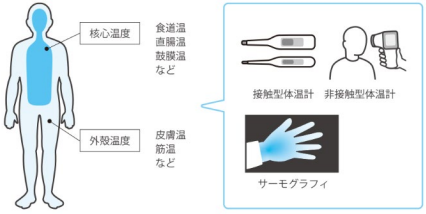


お詫びと訂正

株式会社みらい

このたびは、『みらいスポーツライブラリー 運動生理学』をお買い上げいただきまして誠にありがとうございました。本書に以下の通り誤りがございました。訂正させていただきますとともに、ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

■訂正箇所

	該当箇所	正
p.41 図 2-13 横軸	(左) 運動前 (右) 運動前	(左) 運動前 (右) 運動 <u>後</u>
p.53 図 3-5	# vs.ホウエイ蛋白質	# vs. <u>卵</u> 蛋白質
p.108 学びの確認 ②	……カルシム……	……カルシ <u>ウ</u> ム……
p.143 本文 下から 5 行目	体温計で測定する体温は私たちの身体内部の温度である核心温度の指標であり、ヒトの核心温度は約 37°C に保たれている。一方、サーモグラフィなどによって測定される体温は皮膚表面の温度であり、外殻温度と呼ばれる。核心温度はおよそ一定に保たれているのに対して、外殻温度は環境の変化によって大きく変化する(図 9-1)。	<u>食道温や直腸温などは私たちの身体内部の温度である核心温度の指標であり、ヒトの核心温度は約 37°C に保たれている。一方、皮膚温や筋温などの身体表面に近い部位の温度は外殻温度と呼ばれる。核心温度が一定に保たれているのに対して、外殻温度は環境の変化によって大きく変化する。また、身体中心部に近い特定の部位の外殻温度は核心温度に近い値を示すため、脇に挟んで測る腋窩温などは核心温度の指標として用いる場合もある(図 9-1)</u>
p.143 図 9-1 吹き出し	核心温度と外殻温度で分かれる。 (吹き出しは 2 つ)  人の核心温度は約 37°C。外殻温度は環境によって大きく変化する。	核心温度と外殻温度で分かれ ない 。 (吹き出しは 1 つ)  人の核心温度は約 37°C。外殻温度は環境によって大きく変化する。
p.204 図 13-4 出典	Ochi G, Kuwamizu R, Suwabe K, Fukuie T, Hyodo K, Soya H. Cognitive fatigue due to exercise	<u>Ochi G, Yamada Y, Hyodo K, Suwabe K, Fukuie T, Byun K, Dan I, Soya H.</u> <u>Neural basis for reduced executive</u>

	under normobaric hypoxia is related to hypoxemia during exercise. Scientific Reports . 12 (1) :9835, 2022. を一部改変	<u>performance with hypoxic exercise. Neuroimage. 171:75-83, 2018.</u> を一部改変
--	---	--

訂正および正誤等の追加情報は小社書籍サポートページにてご確認いただけます。

